

奈良市教育委員会
教育部 文化財課埋蔵文化財調査センター
電話 0742(33)1821

令和2年度秋季特別展 「ナニこれ！？—平城京出土の用途不明品—」の開催について

1 目的

本年度で奈良市教育委員会が平城京の発掘調査を開始して41年目となります。調査次数は740次を超え、多くの考古資料を保管しています。これらの資料のうち、主なものは報告書や展示で紹介してきました。それら考古資料それぞれの性格は、発掘調査担当者や研究者により検討・研究され、使い方等が明らかにされてきたところです。

しかし中には、類例も少なく、その形状・材質をみただけでは、使い方がわからない、用途不明品とよばれる一群の資料があります。

これまで平城京出土用途不明品についてはその性格上、まとまった形で公開されたことはありません。そこで今回の秋季特別展示では、発掘調査担当者や研究者が頭をひねる、ある意味、謎を秘めた奈良市所蔵の平城京出土用途不明品等を集め、4つのテーマに分け、展示して、今後様々な視点で活用されるきっかけとなるのを目的として開催します。

2 会場・日時

奈良市埋蔵文化財調査センター展示室

令和2年9月1日（火）～11月20日（金）

土曜日・日曜日・祝日は休館 ※10月17日（土）は開館します

9時～17時

入館無料

3 内容

I. ナニこれ！コレなに？

平城京内の調査で出土した遺物の中には、類例も少なく、その形状・材質をみただけでは、使い方がよくわからないものがあります。ここではそのような、ある意味、謎を秘めた興味深い遺物をパネルとともに紹介します。

主な展示遺物

蓮華紋押型（おしがた）土製品、山形土製品、獣脚付円盤状土製品、台付円板状土製品、台座形土製品、花紋円盤形土製品、摺鉢（すりばち）状土製品、半球状土製品、須恵質円筒、山形施釉陶器、火炎形瓦製品、瓦製円筒、鉄製二叉鉢、鍬（さん）形鉄製品、線刻石、琴柱（ことじ）形木製品、ココヤシの実

II. ナニこれ！どのように使ったの？

平城京の主な出土品には、瓦・須恵器・土師器があります。瓦は屋根へ葺くものであり、土師器には椀・皿等の供膳（きょうぜん）具、竈（かまど）・甑（こしき）等の煮炊き用の煮炊（しやすい）具、壺などの貯蔵具があり、須恵器は供膳具、貯蔵用具と、材質を勘案し、それぞれ用途に合わせて、適当な大きさのものを使い分けていることがわかっています。しかし中には、サイズが著しく異なるものや、材質が違うものもあります。また必要なはずの部分が元々無いものや、逆にになにかが付属するものもあります。ここではそのような、何であるかはわかるものの、どのように使ったか、よくわからない出土遺物をパネルとともに紹介します。

主な展示遺物

ミニチュア土器、仕切りがある須恵器壺、突起がある須恵器皿、土師器製作手法による須恵質の竈・椀、ポケット状の把手がある須恵器甕、孔がある須恵器壺・蓋、「分銅」形土製品、ミニチュア丸瓦、小型瓦、超小型瓦、超大型軒平瓦、無紋鬼瓦、花紋埴（せん）、金糸

III. ナニこれ！どんな願いが？

平城京からは様々な祭祀・宗教関係遺物が出土します。しかし、考古学は主にものを研究対象としますので、ものとして残らない過去の人間の心の研究は苦手とするものの一つです。それでも文献史料や民俗学などの成果を比較検討して、さまざまな仮説が出される魅力ある遺物をここでパネルとともに紹介します。

主な展示遺物

人面墨書土器、土馬、ミニチュア煮炊具、人形、銅製人形、大型人形、人形を封入した須恵器壺、刀形、馬形、斎串（いぐし）、木偶、陽物（ようぶつ）形木製品

IV. ナニこれ！どんな意味が？

奈良時代は律令に基づく文書行政事務が貫徹していたといわれ、木簡を代表する、さまざまな文字資料が出土しています。ここでは、単なる落書きまたは習書等とは思えないのですが、はっきりとした意味が分からない墨書・墨画・刻印等をパネルとともに紹介します。また何を表現したかわからない造形や、どんな意味が込められたか意味不明な遺物もあわせて紹介します。

主な展示遺物

墨書土器、墨書のある檜扇、墨画のある須恵器蓋、圈足円面硯（けんそくえんめんけん）脚部、大安寺の刻印瓦、異物の混じる瓦

4 問合せ先

奈良市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センター

〒630-8135 奈良市大安寺西二丁目281番地

電話 0742(33)1821 Fax 0742(33)1822

E-mail: maizoubunka@city.nara.lg.jp